

大本山永平寺：七堂伽藍

永平寺は、その伽藍の配置で有名である。禅宗では、寺院は、僧侶たちが住み、食べ、眠り、そして修行する中心的空间を形成する 7 つの基本構造物を中心に構成されている。これら 7 つの建物は「七堂伽藍」と呼ばれる。「伽藍」とは、サンスクリット語に由来するもので、修行僧たちが修行するために集まった庭を指す。

七堂伽藍に含まれる特定の建物の約束事は、寺院が属する宗派や建築の時代によって異っている。永平寺の七堂伽藍は、中国の天童寺をモデルにしており、道元禅師は帰国後、曹洞宗を広めた。永平寺の七堂伽藍は次のとおりである。

山門（正面）、仏殿（仏陀の大広間）、法堂（達磨堂）、僧堂（僧侶の館）、大庫院（台所と管理棟）、浴司（浴室）、東司（トイレ）七堂伽藍の建物は、すべて屋根付きの回廊で繋がっている。